

学校番号				
2	7	0	0	7

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 20 日

札幌市立 発寒西小 学校

1 今年度の重点目標

たのしさいっぱい あふれるえがお

2 本年度の経営方針

「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」「学びの支援」「教育環境整備」「関係機関連携」「働き方改革」
--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「かしこい子」「やさしい子」「たくましい子」	知・徳・体の調和のとれた育ちにより、学校が楽しい、という思いが高まるよう教育に取り組む。	A	学校教育目標を子どもでもわかる言葉にし、意識の定着と目標の共有を図っている。職員による各校務部会の活動によって、知・徳・体それぞれが充実するような活動がバランスよく行われていた。R7年度も継続して取り組む。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○バランスよく運営されている。 ○自己評価、改善方策をより具体的に記載するとよい。 ○先生方の授業研究が子どもたちにより効果を与えている。 ○子どもたちは元気にあいさつをしている。 				
調和のとれた・徳・体の育ち	学ぶ力	「学ぶ力」育成プログラムの実施	A	今年度は教員が相互に技術を伝え合う活動が充実していた。また、たのしく学習に取り組んでいるというアンケートの数値も高く、子どもたちへの取り組みは効果を発揮していた。来年度は、学校として目指す子ども像が保護者により理解されるよう、学校説明会やHPなどを活用して発信する。	A	A
	豊かな心	命を大切にする指導	A	ペア学年によるふれあい活動を子どもたちは楽しんでた。ペア学年にすることで活動しやすくなり、子どもたちが考えた活動を行うことができた。また、いじめを防ぐ目標づくりに全校で取り組むなど、互いを大切にしようとする思いを育ててきた。来年度も今年度と同様の活動を続けて定着を図る。	A	A
	健やかな体	「健やかな体」育成プログラムの実施	B	「マット・跳び箱ウィーク」の継続などは一定の効果があった。なわとび検定は子どもの意欲が高まるように活動を進めることができなかった。来年度は低学年で重点的に取り組むよう計画を立てている。また、防災・食育・健康教育の分野では、昨年度よりもさらに取り組みが充実し、子どもたちの意識も高まっていたので、来年度も継続して取り組みを続ける。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○職員が連携して効果を高めている。 ○子どもたちが来校者に元気にあいさつしている。 ○学ぶ力についてはアンケートの結果からも効果が高かったことがわかる。 ○ハッチャムひろばの取り組みを今後も続けて欲しい。 ○デジタル環境を活用し、家庭と学校の距離を縮める取組をするとよい。 				
子どもの発達への支援	不登校支援	保護者や子どもの声に耳をすませ、親身に相談に乗ったり、適切に対応したりしている。	A	児童の心情面での変化を見る化する「シャボテンログ」などを活用した児童の実態把握と、チームによる組織的対応が効果を上げている。また、不登校傾向にある児童の家庭に対しても繰り返し連絡をとり、児童の将来について一緒に考えることができた。来年度も組織的に対応を継続していく。	A	A
信頼される学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	学校ホームページなどを活用し、子どもたちや学校の様子をよく知らせている。	B	HPを毎日更新し、学校の様子を伝えることができた。また、学校と保護者の相互連絡システム「すく〜る」を活用して保護者からアンケートをとるなど、より多くの保護者の声を聞くことができた。ICTの活用など、学校での活動が保護者に伝わっていない現状がある。学校説明会や懇談会、HPなどを活用し、今後も子どもたちの様子を保護者に伝えていく。	A	A
教科等の枠組を越えた教育	人間尊重の教育	学校行事や異学年交流などで子ども同士が認め合う活動を通して、子ども一人一人が自分が大切にされていると実感できるようにする。	A	行事などで学年間でメッセージカードを送り合い、互いのよさを認め合う様子が見られた。また、ペア学年によるふれあい活動は、今までよりも互いに親しみを持つことができていた。いじめを防ぐ目標づくりは、互いを尊重する気持ちを高めていた。今後も教育活動の中で、互いを認め合う機会を増やすことに努める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクールの導入に向けて複合施設のよさを生かすとよい。 ○いじめを防ぐ目標づくりの取り組みを全校的に行っているのは素晴らしい。 ○子どもたちはクロームブックを使いこなしている。その姿を保護者が目にする機会を作れるとよい。 				